



独立行政法人 国立病院機構

村山医療センターニュース

理念

患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。

基本方針

患者さんの権利と意思を尊重します。
安全で優しいチーム医療を提供します。
倫理を重んじ高度で先進的な医療を提供します。
地域医療連携の促進を図ります。
骨・運動器疾患の臨床研究を推進します。
職員は研鑽に励み、健全な経営に努めます。

第51号
2015.4

発行責任者 院長 朝妻 孝仁

副院長退任にあたって

瀬川 徹

平成27年3月31日付けで村山医療センターを定年退職しました。私は平成5年6月に九州の長崎から村山に赴任し、退職までの21年10ヶ月に渡り、外科医として地域医療に尽力してまいりました。長崎では主に肝臓の手術を中心として外科医として働いてまいりましたが、村山では外科一般、主に消化器疾患の診断から治療まで一貫して診療を行うことで、患者さんとの結びつきが強くなっていったと思います。赴任当時は国立療養所村山病院でしたが、その後独立行政法人となり病院名を現在の村山医療センターと変更いたしました。

当院は整形外科・リハビリ科を中心に、高度な医療を提供することを理念としております。整形外科領域では脊椎疾患・関節疾患手術療法を広く行っており、リハビリは回復期病棟を有し、災害医療センターを始め、急性期病院からの患者さんを受け入れ、経験豊富なPT・OT・STスタッフにより、傷害された機能回復が進み仕事復帰が可能となります。またH26年6月から地域包括ケア病棟を開設し、集中した治療により早期に在宅へ戻ることを目標としております。内科に関しては、リウマチ疾患・呼吸器疾患を中心に地域医療に貢献しています。

外科では超音波検査、CT、MRI、内視鏡検査（胃カメラ、大腸ファイバー、その他）、血管造影、胆道系の検査など消化器系の検査を行い、診断・治療に役立てました。手術については、赴任した当時は、がん治療に関しては拡大手術がまだ優勢の時代であり、鏡視下手術が胆石など一部の疾患で広く行われ始めた頃でした。それが今では各臓器の機能温存を目的とし、低侵襲手術として鏡視下手術が主流となり、あらゆる領域で広く行われるようになりました。しかし手術適応は重要であることには変わりはなく、近い将来のロボット手術に関しても、技術面を含めて導入には慎重に対応しなければならないと考えています。

赴任当時は外科医3名で診療を行っていましたが、患者数の増加に伴い、外科入院ベッド数も40床から60床を確保するようになり、それに伴い医師数も4名体制に増員されました。その頃は年間手術件数も200例以上を数え、術後管理で毎晩遅くまで病棟で仕事をしており、スタッフの健康管理を心配していたことを思い出します。しかし外科医特に消化器外科医の減少が全国的に問題となり、当院への派遣医師の確保が困難となり、最終的には5年前に私1名での外科診療を余儀なくされました。外科診療の縮小に伴い、患者数の減少、検査・手術件数も減少し、私の退任に伴い、外科は休診とせざるを得なくなりました。後任の外科医を確保できなかったことは、私の不徳のいたすところであり、外科通院中の患者さんを始め、医師会の諸先生方には誠に申し訳ございませんでした。今後はできるだけ早期に外科診療の再開を願っております。よろしく願いいたします。



平成27年3月25日 副院長送別会にて

漢方整形診療のご案内

許斐 恒彦



『異病同治』(いびょうどうち)

『同病異治』(どうびょういち)

西洋学的に異なる病気も同じ薬で治す。

逆に同じ病気でも異なる治し方が存在する。

漢方医学は、病気の捉え方や診断体系が西洋医学と異なります。

整形外科では、個々の症状をもとに、X線写真やMRI写真などの画像診断に重点がおかれる傾向にあります。通常はそのような検査で診断がつくことがほとんどなのですが、なかには腰痛やしびれなどの症状があっても「検査上は特に異常がない」と言われ、治療の対象にならないとって来られる方がいらっしゃいます。また、診断に基づきいろいろな鎮痛剤などを用いるものの、薬の副作用が出てしまったり、症状が一向に改善しない方がいらっしゃいます。手術の適応があれば、さらに治療を進めていくことができるのですが、しかしその適応がない場合、または症状とその診断とが合わないようなことがあると、治療に行き詰まってしまいます。そのような時に、漢方薬を用いた治療がうまくいくことがあります。

漢方医学は、先人達の叡智に基づき確立されてきた、経験に則る治療体系であり、西洋医学とは異なる診察手法と治療薬の特徴を備えています。一般的に西洋医学は、病気の症状を個別に対処し、また原因の除去を目標とします。例えば、ウイルスや細菌の感染によって熱が出ているとすると、熱に対しては、これを下げる「解熱剤」で対処し、その原因が細菌感染であれば、細菌を退治する「抗生剤」を用いて治療します。

一方、漢方治療の場合は、四種類の診察(四診)を行って一人一人の『証』を決定し、また『気・血・水』の異常を判断し、個人の状態にあわせて漢方薬を選択して治療します。つまり患者個人の病気(病名)に対する治療でなく、全身状態に基づいて処方決定し、体質の改善を図ることで症状(病気)の改善を目指します。我々の身体を一つの森に例えるなら、西洋医学が悪くなっている木々を一本一本直接治すイメージであるのに対して、漢方医学は森全体を見渡し必要な環境整備をおこなうことで、森全体を元気にし結果として病気も治っていくというイメージです。

具体的には、しびれや痛みといった西洋医学では同じとみなされる症状も、漢方医学ではその背後にある『証』を判断し、また『気・血・水』のどこに異常があるかを考慮します。全身の状態の判断のために、整形外科であっても、お腹の状態、舌の状態、脈の状態等、全身の診察が必要になることがあります。個人の全身の状態を判断した上で処方を決定していきますので、漢方医学はオーダーメイド感覚な治療とも言えます。

漢方薬は複数の生薬が、決められた分量で組み合わせて作られています。用いる条件も細かく定められており、現在保険適応を有する漢方処方箋は148種類あります。それぞれの生薬が、多くの有効成分を含んでいるので、1処方箋でもさまざまな作用を持っています。そのため、複数の病気や症状に対する治療にも有効で、慢性的な病気や全身的な病気の治療など複雑多彩な症状に効果を発揮します。また、西洋医学では同じ原因や症状をとり除くために同じ薬が処方されますが、漢方医学では患者さんの体質やそのときの状態によって、その人に合った漢方薬が処方されることとなります。また一方で、違う病気に対しても、体質や症状が似ていれば、同じ漢方薬が用いられることがあります。

「漢方薬は安全で副作用がない」と思われている人が多いかもしれませんが、漢方薬も薬ですので、副作用はあります。「証」に合わない薬を飲めば、胃腸障害や吐き気、蕁麻疹などの副作用を起こすことがあります。ただし、西洋薬と比べれば程度も軽く頻度も少ない場合がほとんどです。

当科では漢方薬を用いて下記のような症状に対する治療をおこなっています。
腰痛、神経痛、肩こり、関節痛、こむら返り、けいれん、筋肉痛、手足のしびれ、打撲、静脈瘤、火照り、冷え性、便秘、むくみ、元気がない、など。

診察の結果によっては、西洋薬や手術加療の方が有効な場合もあります。また西洋薬と漢方薬との併用が効果的なケースもあります。検査上は特に問題がないのに上記の症状が続くような方や、漢方薬に興味のある方、また他院で漢方薬を慢然と飲んでいるが効果がよくわからない、漢方薬を用いることで西洋薬の量を減らしたい方など、ぜひ一度ご相談ください。

♥ 新任医師ご挨拶 ♥



麻酔科医長 小澤 治子

四月から麻酔科に赴任いたしました。患者さんに安心安全な麻酔を提供すること、術者により良い手術環境を作ることに力をいれていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

整形外科医師 平賀 聡

初めまして、4月1日より村山医療センターに赴任してまいりました平賀聡と申します。



基本的には外傷など整形一般に関して診療しております。当施設には専門のスタッフが多く在籍していますので、ご教授いただきながら診療に役立てていきたいと思ひます。

患者さんのADL、そしてQOL向上のためこれからも診療を行ってまいります。

まだまだ若輩者ではありますが、精一杯努力してまいりますのでよろしく願いいたします。

リハビリテーション科医師 渡部 桂子



4月から村山医療センターに赴任いたしました、渡部桂子と申します。患者さんそれぞれの全身状態をみながらリハビリテーションを実施し、より自立度の高い生活、社会復帰を目指してければと考えております。よろしく願い申し上げます。



災害訓練

災害訓練

東日本大震災から4年目を翌日に控えた平成27年3月10日、当センターでは第2回災害訓練を行いました。4年前の東日本大震災の影響により、当センターでも数ヶ月間の病棟閉鎖・計画停電等の被害を受けました。

当時の経験を決して風化させてはなりません。私達の住むこの地域には立川断層があり、地震の発生率が高いと言われています。甚大な被害が想定される震災はいつ起きるか分かりません。今回は100名近い職員が参加し、地震と火災発生を想定した訓練を行いました。

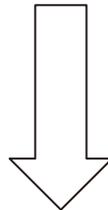
各部門（エリア）を担当しそれぞれの視点で課題を見だし、改善点を明らかにすることができました。訓練は積み重ねて行く事が重要であると痛感しました。

私達、村山医療センター職員は病院として地震の規模にかかわらず、被災者を受け入れる準備をしておかなければなりません。このような訓練を機会に医療従事者としてすべき事は何か、考える事がとても大切です。今後も計画的に災害訓練を実施してまいります。



トリアージ

自助共助で来た患者さんを
トリアージポストで振り分けます



振り分けられた患者さんを
それぞれのエリアに搬送します



搬送

GMでは各エリアと情報を共有し、患者さんの把握に努め全体をマネジメントします



GM



みどりエリア



赤エリア



黄色エリア

脊髄損傷看護院内認定看護師制度について

教育担当看護師長 杉山 学子

国立病院機構村山医療センターは、一般病院では対応が困難な骨運動器疾患の他に、脊髄損傷に関しても高度な医療と社会復帰を目指したりハビリテーションまでの一貫した医療を行っています。脊髄損傷の入院病床は80床と、関東地域でも有数の病床数を有しており、交通事故やスポーツ事故などのほか、疾患により脊髄に障害を負った方などが入院しています。

当センターでは平成21年度より脊髄損傷看護院内認定看護師制度を設けており、主に脊髄損傷病棟の看護師が、脊髄損傷に関する専門的な病態や合併症について学び、リハビリテーションや、社会資源の活用、患者の心理について考える演習など、2年間にわたる専門研修を受けたのち、院内認定看護師の資格を得ています。

平成26年度には新たに2名の看護師が認定され、現在6名の脊髄損傷看護院内認定看護師が直接患者さんの看護を行い、更に看護職員の教育・指導に取り組んでいます。



「新たに褥瘡ケア院内認定師が誕生しました」

平成27年3月20日、平成26年度褥瘡ケア院内認定師研修修了・認定式が行われました。第4期生13名に対し、朝妻孝仁院長より修了書および認定証書が授与されました。第1期生から含めると総勢46名の褥瘡ケアの院内認定師が誕生したことになります。研修生代表から院内認定師として各部署で予防ケアの推進をはかるという自身の役割や、その活動への決意が述べられていました。

褥瘡ケア院内認定師資格は、医療チーム全体での褥瘡ケアの質の向上をはかするため、看護師だけでなく理学療法士・作業療法士も有しています。専門職としてのそれぞれの強みを活かし、褥瘡発生の予防や早期から適切な治療が行われるように体制を整えることを期待しています。



スキーツアーに行ってきました!

庶務班長 村雲 真佐哉

平成27年3月13日夜～15日にかけて、村山医療センター初となるスキー・温泉ツアーが群馬県万座温泉で開催されました。参加者は朝妻院長、竹光外来部長、許斐整形外科医師のほか総勢24名。普段、名前は知っているけど顔は分からない、電話では話をしたことはあるけど直接話したことはないなど不安もありましたが、バスの中で意気投合しワイワイ楽しい車内でした。

金曜日の夜に出発したので、宿への到着は午前1時近くとなり、かなりお疲れモードでしたが、なにぶん職員旅行など遠い昔のはなしの中堅と、今まで経験したことがない若手の集まりだった事もあり、初日から用意した飲み物は底をつき、気付けば最後の7、8人は朝の6時まで飲んでいました。 (ちなみにそのまま7時の朝食に行ったそうです。)

2日間とも天候にも恵まれ、快晴の中、今回初めてスキー、スノーボードを履く人や、10数年ぶりにスキーをする人まで、みんなスキーと温泉、そして何より最高の笑顔で満喫してきました。

冒頭でも触れましたが、コミュニケーション不足と云われてしまう現代、このような形で中堅と若手が一緒になる機会が今は必要なのかも知れないと感じました。今後も当院では様々な催しを企画して、コミュニケーションを図っていこうと思います。



6病棟(回復期リハビリテーション病棟)

6病棟 看護師長 山田 朗加

東病棟の1階にある6病棟（回復期リハビリテーション病棟）は、脳卒中や大腿骨骨折の手術後など急性期を脱した患者さんがリハビリのために入院しています。

急性期治療を終了した患者さんは全身状態がひとまず安定したとしてもまだ麻痺などの障害が残っている場合が多くあります。このような障害はすぐには固定せず、機能の回復が期待できる期間が続きます。この回復が期待できる時期に、必要とされるリハビリテーションを集中的に行い、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的にリハビリテーションを行う病棟が、回復期リハビリテーション病棟です。

複雑な心身状況にある患者さんやご家族に対し良質な入院医療サービスを提供するためには、医師だけではなくさまざまな医療スタッフが一緒になって専門技術・知識を持ち寄り、医療を提供することが必要です。スタッフはリハビリテーション科医、看護師、専属の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーがチームを組んで、患者さん、ご家族と一緒に日常生活動作の機能回復、在宅復帰への支援を行っています。入院時から日常生活機能を評価し、多職種カンファレンスを行い、アプローチすべき内容を計画（リハビリテーション総合実施計画）しています。また、患者さんの身体的問題だけではなく、ご家族を含めた心理的・社会的・経済的問題についても同様に、解決に向けて多職種が連携して関わっています。

退院後の生活については、患者さんやご家族の希望を聞き、自宅に帰ってからの患者さんの生活を第一に考え最良の方法を考えていきます。患者さんの状態やご家族の状況によって家庭復帰や退院先の決断に不安を感じる際には、担当医師や看護師はもちろん、専属のソーシャルワーカーが相談にのり、患者さん・ご家族が安心して解決していけるようサポートしています。

各職種のスタッフがチーム力を最大限発揮できるように、明るく元気にコミュニケーションをとりながら働いている病棟です。



カルシウムだけじゃない！～骨を守る栄養素たち～

栄養管理室長 近藤 純子

昨年12月6日に行った市民公開講座「骨粗鬆症ってなんだろう」で話した栄養に関する内容を今回から4回シリーズで掲載していきます。骨と関係が深い栄養素といえば「カルシウム」ですよ。第1回目はそのカルシウムについて紹介していきます。

ここで、クイズです。

食事からとったカルシウムはどの程度が体に吸収されるのでしょうか。答えは後ほどお伝えしますね。

私たちの体に存在するカルシウムの約99%は骨や歯に含まれています。カルシウムが不足すると骨に含まれるカルシウムが溶

け出して血液中の濃度を一定に保とうとするので、どのくらいとっているのか、足りているのか、血液検査だけではわかりにくいのです。だからこそ、必要だといわれる量をしっかりとっていききたいのです。

カルシウムが多く含まれる食べものは、何と言っても「乳製品」です。牛乳やヨーグルト、チーズなどを毎日とりたいですね。乳製品が苦手だなあという方、「小魚」はいかがでしょう。しらすやワカサギ、シシャモなど骨ごと食べられるものがおすすめです。殻にカルシウムを多く含む桜エビも良いですね。他には豆腐や生揚げ、納豆などの「大豆製品」、「海そう」や「緑の野菜」にもカルシウムが含まれています。



ではここで、先ほどの答えです。食事からとったカルシウムの吸収率は平均30%程度だそうです。吸収率が良い順番に乳製品で約50%、小魚、大豆製品や緑の野菜と並びますが、実はカルシウムだけたくさんとっても体にはうまく取り込まれません。体に取り込むためにはビタミンDの摂取が大切です。次回はこのビタミンDについて紹介します。

**** 簡単レシピ ****

しらすのごまドレッシングかけ豆腐

材料

木綿豆腐：100g

しらす：大さじ1杯

すりごま：ひとつまみ

ごまドレッシング：大さじ1杯

作り方

「木綿豆腐」の上に「しらす」と「すりごま」をかけて「ごまドレッシング」をかけるだけ！

すりごまがポイントです。

(カルシウム約150mgとれます)

村山医療センター「看護の日」フェスティバルのお知らせ

日時：平成27年5月16日(土) 10:00～15:30

場所：イオンモールむさし村山 1階サウスコート

是非!
ご来場ください。

～イベント内容～

身体検査(身長・体重・体脂肪など)骨密度測定・AED体験・
運動能力計測、一酸化炭素測定(禁煙を考えている方に)
感染予防コーナー
整形外科に関する医療相談・おくすり相談・栄養相談・福祉相談
白衣コスプレ体験(写真付)



外科休診のお知らせ



平成27年4月1日より外科の診療(内視鏡を含む)を当面の間、休診させていただきます。

ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご了承をお願いいたします。

ご不明な点は、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先：独立行政法人国立病院機構

村山医療センター

電話：042-561-1221 (代表)

外 来 診 療 担 当 医 師

■ 一 般 外 来

※受付時間 (初診:8時30分～11時まで)
再診:8時30分～12時まで)

平成27年4月1日現在

診療科等		月	火	水	木	金	備 考	
内 科		片 寄	岡 田	片 寄	岡 田	岡 田		
外 科		休 診 中						
整形 外科	再 診	脊椎	○朝妻 ○竹光	◎谷戸 ◎藤吉	○○金子 ○八木	○町田(正) ◎許斐	◎安田 佐藤	◎脊髄損傷 ○側弯 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎)
		関節	中村		窪田		笹崎	股・膝関節・下肢
		一般		平賀				
	初診	交替制						
リハビリテーション科		渡部	植村	倉片		交替制(※) (第4・5金は休診)	※第1金…倉片 第2金…植村 第3金…渡部	
歯 科		宮本	宮本	宮本	宮本	宮本	予約制	

■ 専 門 外 来

※受付時間 13時～

診療科等		月	火	水	木	金	備 考
内科リウマチ					片寄 (13:00～)		
側 弯		齋藤 (第4週のみ)		八木 (13:30-15時)	町田(正) 金子(第2・4週14-17時)	八木 (第2・4週15-17時)	予約制
骨粗鬆症 (13:30～15:00)					町田(正)		予約制
装具外来 (リハ棟)		植村/倉片/ 渡部					予約制
検 査	超音波	頸部・甲状腺／腹部・骨盤					予約制
		下肢(病棟)	下肢(外来)	下肢(外来)	下肢(外来)	下肢(病棟)	予約制
	消化管造影 検査						予約制

※循環器科、泌尿器科、皮膚科、精神科については、一般外来を行っておりません。

診療について

診 療 日 月曜日～金曜日(祝日及び年末年始は除く)
診療受付時間 初診の方 午前8時30分～午前11時00分
再診の方 午前8時30分～午前12時00分

※急患は(整形外科)随時受付けております。
専門外来については医事窓口にてお問合せ下さい。
毎月初めに保険証の提示をお願いします。変更のあった場合はお知らせ下さい。

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター
〒208-0011 東京都武蔵村山市学園2-37-1
TEL 042-561-1221(代) FAX 042-564-2210
URL : <http://www.murayama-hosp.jp/>

医療法人社団昭美会 新城医院

院長あいさつ

当院は現理事長が昭和50年に開設し、今年で創立40周年を迎えました。

平成12年に全改築を行い、整形外科を主体とした手術室を備える3階建ての有床診療所となりました。

現在は外来を中心に診療を行っており、1日平均約400名の患者さまに来院していただいています。診療所（医院）と病院の役割はそれぞれ異なります。

整形外科医院にとって重要な事のひとつは、保存療法（手術以外の治療）を丹念に行うことです。

当院では特に骨粗鬆症、関節リウマチ、リハビリテーションに力を入れており、最新、最良の治療を心掛けています。全身の骨密度を測定する機器（DXA）を導入し、生物学的製剤や神経ブロック注射も積極的に取り入れています。

リハビリテーションは物理療法（機器を用いた治療）だけではなく、運動療法や体操指導、テーピング指導等も積極的に行っています。また従来の整形外科、接骨院の壁を取り払い、柔道整復師や整体師によるマッサージ治療も取り入れ、多くの患者さまにご好評いただいています。今後は更にスポーツ整形にも力を入れようと考えています。

また当院は、医師と患者さまのコミュニケーションを重視しており、できるだけ患者さまの声に耳を傾けるように心掛けています。そのため待ち時間が長くなりがちなのが大きなジレンマでしたが、今年の夏頃には固定電話や携帯電話から順番が取れ、番号が近づくとこちらからご連絡するシステムを導入する予定ですので、待ち時間が解消されることが大いに期待されます。

医院にとって重要な事のもうひとつは、患者さまの病態を見極め、必要に応じ適切で高度な病院へご紹介することです。

ご紹介先の病院の治療技術が低ければ、当院と患者さまとの信頼関係も損ねてしまいます。その点に於いて、村山医療センターは私たちにとっても大変頼もしい病院です。常に正確な診断と的確な治療を行っていただいています。

ご紹介した患者さまが、手術、退院後に良くなったと来院されると、私たちも自分たちのことのように嬉しくなります。

また日頃から村山医療センターより、保存療法が必要な多くの患者さまを当院へご紹介いただいております。この場を借りて感謝申し上げます。

これからも村山医療センターとの医療連携を大切にしつつ、地域医療の貢献に少しでも役立つようスタッフ一同頑張りますので、今後とも宜しくお願い致します。



院長 新城 貴寿 先生



○診療科：診療科：整形外科、外科、肛門科、
リウマチ科、眼科、リハビリテーション科

○休診日：木曜日・偶数週の日曜日・祝日

○住 所：〒207-0023 東京都東大和市上北台3-446-15

電 話：042-565-3161

ホームページ<http://www.shinjo-iin.com/>